

事業報告

令和元年度 教育事業

ボランティアステップアップ研修

令和元年10月26日(土)～27日(日)

【対象】高校生・大学生・社会人

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

法人ボランティアとして活動を行う上で、必要な知識・技術のスキルアップを図る。また、事業の企画や運営方法について学び、ボランティアとしての資質・技能を習得する。

～主催・後援・協力団体～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
	午前							午後					夜					
10/26 (土)	茅野駅 9:40発 開会式10:20			開会式	実習① 「ブッシュクラフトに チャレンジ」～高遠の フィールドを活かす活 動実践技術～ 講師：鈴木道郎氏		昼食	講演会・ワークショップ① 「ボランティア活動と協働」 講師：長谷川幸介氏			休憩	夕飯の 集い	夕食	入浴	グループワーク① 「事業を企画立案して みよう～企画運営1・ 2・3」 アドバイザー： 中山結衣さん 三好愛実さん		交流会	
10/27 (日)	朝の 集い	朝食	清掃 ・ 荷物整理	グループ ワーク② 「事業企画 運営」 まとめ	実習② 「地域の食文化を取り 入れた野外調理 アレ ンジおやき」 講師：自然の家指導員 (北原丈子氏)		休憩	講演会・ワーク ショップ② 「支援を必要として いる子どもの理解」 ～発達障がい理解 と支援～ 講師：吉澤秀幸氏			開会式	閉会式15:40(自然の家発 16:00)						

～参加者～

大学生：19名 (大学生18名 社会人1名)

～活動トピックス～

実習Ⅰ 高遠のフィールドを活かす活動実践技術 「ブッシュクラフトに挑戦」

講師：キャンパーズヴィレッジ自然学校代表 鈴木 道郎氏

わんぱく広場で火おこしの活動を行った。前日の雨で湿った枝になかなか火がつかず、苦戦した参加者からは「自分の野外活動のスキルの未熟さを痛感した。悔しい。」

「徐々に悔しさを感じる機会だった。もっと生きていく技を自ら身に付けていきたい」などの感想があり、課題に気付き今後につながる活動となった。また、参加者はボランティアとしてキャンプのプログラムを立案する際、子どもが考え実践できる十分な時間の確保の必要性や活動のねらいを明確にして組み立てる重要性を感じる事ができた。



講義Ⅰ ボランティア活動と協働

講師：茨城県生涯学習・社会教育研究会 長谷川 幸介氏

ボランティアが社会や個人に果たす役割を考える中で、ボランティアの存在を様々な視点からとらえて、客観的、主体的にこれまでの法人ボランティアとしての活動を振り返ることができた。

後半は絵本を用いて「共生」「希望」を考え、参加者からは「根本からボランティアを考え、生涯学習として人生キャリアの考え方も変わった」という感想もあり、青少年施設でのボランティアを活動から、さらに発展的に考えるきっかけとなった。

グループワーク「事業を企画してみよう～企画運営1・2・3」

アドバイザー 信州高遠法人ボランティア

中山結衣さん 三好愛美さん

ボランティアによる自主事業の企画委員長を努めた社会人と4年生が講師となり事業を企画運営した経験を後輩に伝えた。その後、参加者は今後やってみたい事業や、取り組んでみたい活動をグループに分かれて話し合い、翌日に発表を行った。国際交流や学習に関連付けたプログラムなどが出され、修了後ゆめ基金事業について、希望者は説明を聞き自主企画事業実施への意欲を高めた。



実習Ⅱ 「地域の食文化を取り入れた野外調理」

講師：高遠青少年自然の家指導員 北原丈子 氏

地域の食文化である「おやき」を作った。子ども対象のキャンプでも作りやすく、食べやすいように、ひき肉を具材として使ったおやきを作り「身近な献立でもアレンジによって楽しめると感じた。」「簡単につくれる献立だと、みんなで楽しみながらできる。」といった感想が参加者から寄せられた。



講義Ⅱ 発達障がいの理解と支援 「支援を必要としている子どもの理解」

講師 南信教育事務所指導主事 吉澤 秀幸氏

発達障がいをもつ児童の認知について、具体的な事例を用いて、講師から対応を学んだ。また、周囲がチームで子どもを支援するために短時間で問題を共有し、解決策のアイデアやできることを話し合う手法を使いながら、自分が困難だと感じたこれまでの問題を話し合い、参加者同士意見を交換した。子どもの理解とともに支援者としての法人ボランティア同士の交流や、チームワークを築く講義となった。



～参加者の声～

- ・ボランティアの仲間といろいろな話ができて、これからさらに頑張っていこうと思う気持ちが強くなった。職員とボランティアとが意見を交わす機会が持ててよかった。来年も続けてほしい。
- ・理論と実践の両方から様々なジャンルで学ぶことができ、ステップアップにつながる充実した2日間でした。次の行動でアウトプットを忘れないよう心がけたいです。

～成果と課題～

- ボランティア同士、職員とボランティアが意見交換を通じて、今後の活動について話し合い自主的な活動のあり方を考える機会となった。
- 大学の行事と重なったため参加を希望するボランティアが参加できなかった。また1年生の参加者が少なく次年度以降のボランティアの確保に課題が残る。